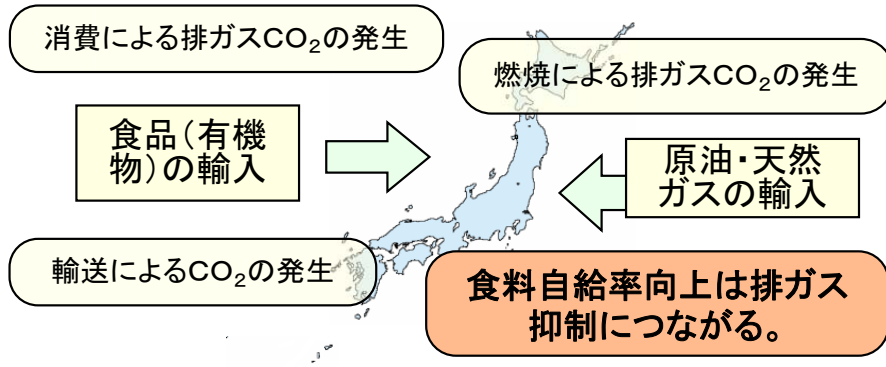


目的

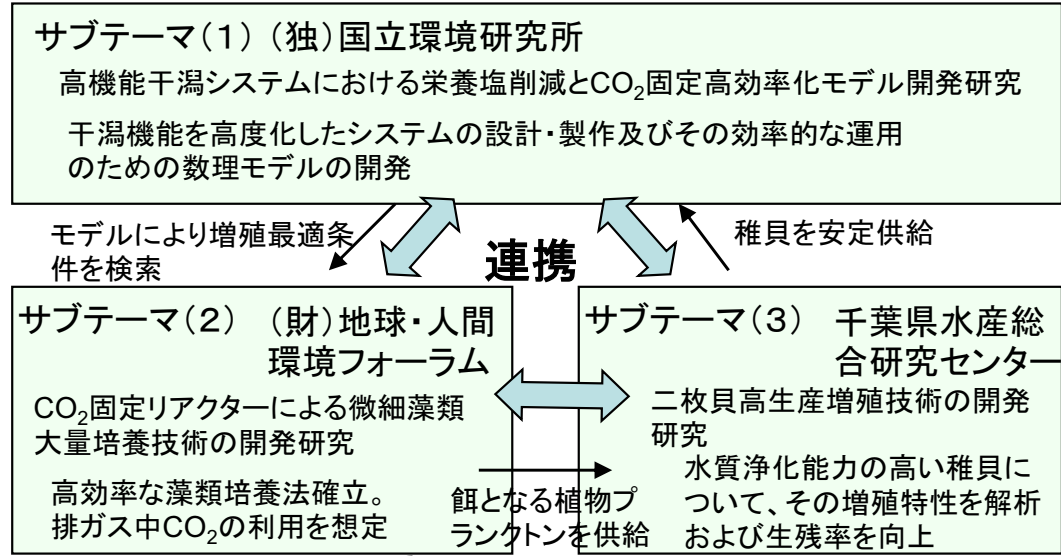
干潟の持つ多様な機能のうち、主としてアサリなどのろ過食性二枚貝による水質浄化能及び、炭素固定能を、産業で発生する余剰エネルギーや排ガス中のCO₂を用いて高機能化し、東京湾など富栄養化した海域を浄化し、生鮮食品を供給すると同時に、高効率にCO₂を固定する技術を開発する。

背景

現状でアサリは、国内消費の7割を輸入



研究体制



概要

- 東京湾の富栄養化海域に隣接する千葉県水産総合研究センターに施設(実験温室)を設置する。
- 本実験施設で植物プランクトンを増殖させ、年間を通し高効率にCO₂を固定する。
 - 栄養塩の豊富な周囲の海水を導入
 - 未利用の低温廃熱を用い、増殖最適条件を得る
 - 高濃度CO₂を含むエネルギー起源の排ガス導入を想定
- ろ過食性二枚貝により、植物プランクトンに固定されたCO₂を回収する。
 - 同化効率の高い二枚貝のろ過食性を活用する。
 - 温排水を用い、年間を通して二枚貝成長に最適な条件を得る(東京湾では、冬は成長しない)。
 - ろ過摂食速度が高い、二枚貝の稚貝を使う。

